

経済産業省 令和7年度 産福共創モデル創出事業

**播磨町でのヤクルトレディ×コミュニティナースによる
相互扶助インフラ共創事業**

2026.3.10

兵庫ヤクルト販売株式会社・宅配事業部・濱本 敦宏

1. 事業の背景・目的

- 人口減・単身後期高齢者増の中で、見えにくい高齢者を地域で支える体制づくりが急務

● 背景 | 高齢化と地域支援の変化

- 播磨町では、総人口は約34,300人（2023年）で横ばい傾向にありますが、将来的には減少が予測されています。一方、高齢化率（65歳以上人口比率）は2020年に27.5%、2030年には約26.6%、2045年には30.3%に達すると予測され、全国平均（約28.7%）を下回るものの、後期高齢者（75歳以上）の比率は2020年時点で12.8%、2045年には15.7%に上昇する見込みです。
- 2020年の世帯数は13,781世帯。そのうち単身世帯は28.2%、高齢者のみ世帯は26.6%を占めています。これは全国平均（23.8%）を約2.8ポイント上回る水準。このように、播磨町では高齢単身世帯が増加しており、「見えにくい高齢者層」が地域で孤立するリスクが高まっています。
- 町内では住民の約40%が「地域の活力が低下している」と感じており、それに伴い見守りや介護ニーズが急増しているにもかかわらず、支援人材の確保が不十分です。民生委員・地域担い手の業務も、認知症・障がい・多文化対応など活動範囲の拡大とともに負担が増し、人材の担い手不足と疲弊が深刻です。
- 加えて、制度や相談窓口へのアクセスが弱く、高齢者が支援につながる前に状態が悪化してしまう「手遅れ型支援」が播磨町でも常態化しています。これらはまさに支援体制の脆弱化、地域内つながりの希薄化という構造的な課題を反映しています。
- 地域には、退職後に活動的なシニア層など、人材として活用しうる資源が存在します。しかし、それらの活力を活かしきれず、世代間交流や相互助け合いの仕組みも十分とは言えません。結果として、播磨町でも地域包括ケアの維持が課題となっているのです。

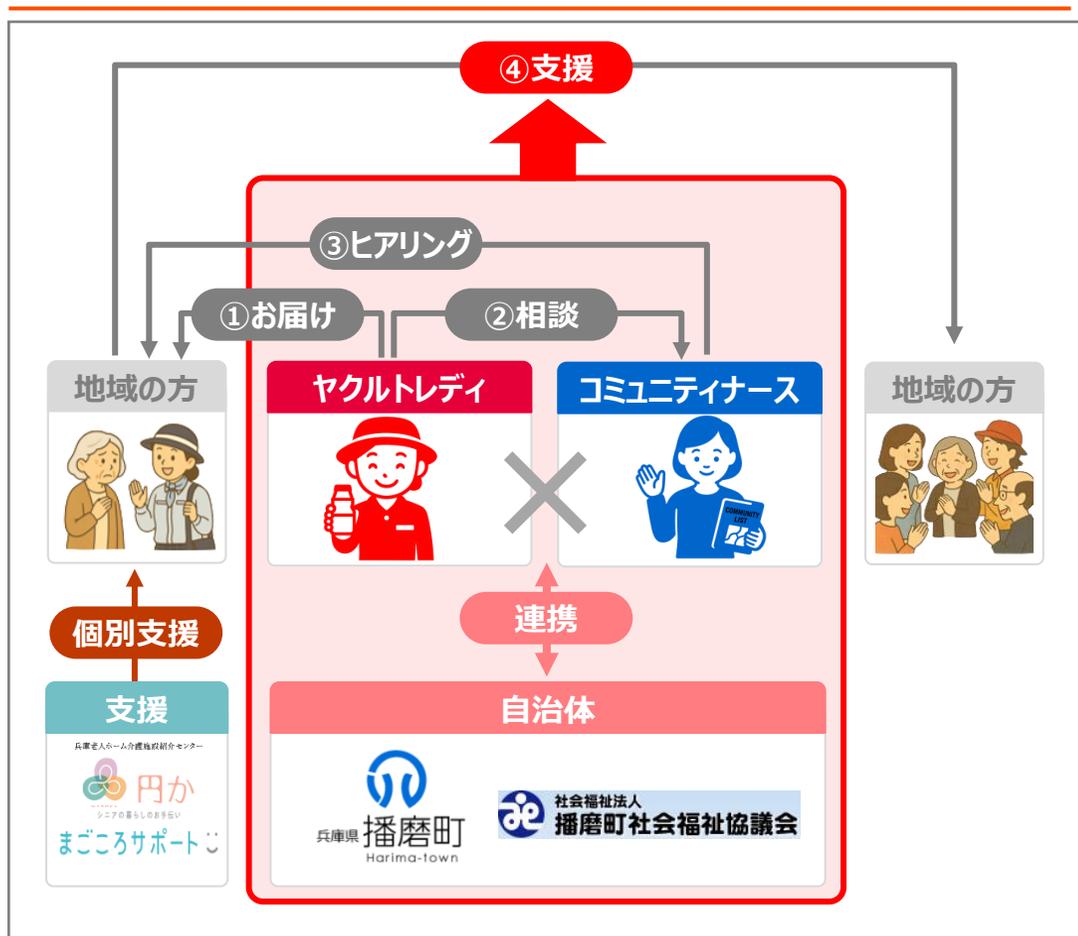
● 本事業の目的

- 「孤独・孤立状態にある高齢者」を早期に発見し、つなぐ地域支援インフラを構築
- 地域住民・民間企業・専門職が連携し支援を担う「重層的相互扶助インフラネットワーク」の形成
- 住民の生活・尊厳・安心を支える持続可能な仕組みづくり

2. 事業の全体像

- ヤクルトレディが気づき、コミュニティナースが繋ぎ、行政・専門機関が解決し、地域住民が助け合う連携モデル

実証事業の概略図



目的

- 地域で心身社会的健康に懸念のある高齢者を早期に把握し、民間・行政・専門機関・地域住民が連携して支援につなげることで、重度化を防ぎ、地域全体で相互扶助による福祉力を高める。

事業内容

- 既存の仕組みではリーチしづらい高齢者を早期に発見し、多セクターが連携して相互扶助につなぐ地域インフラを構築する。
- ヤクルトレディとコミュニティナースにより日常の気づきを起点にした相談・ヒアリング体制を整備する。
- 住民の尊厳と安心を支える持続可能な支援モデルの確立をする。

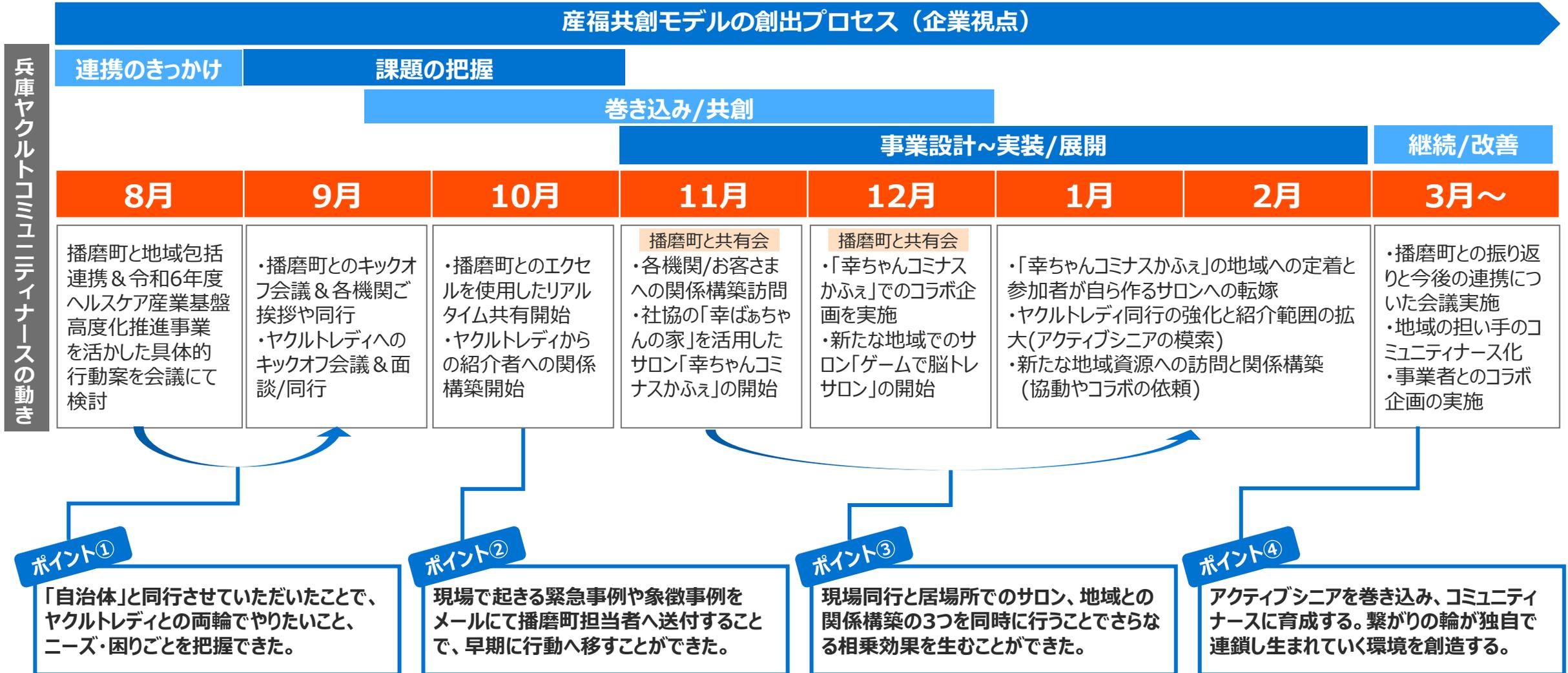
成果物

- 「民間企業から情報提供」を通じて、行政・専門機関がリソース不足で把握しきれない支援が必要な高齢者を早期に把握し、適切な支援に繋げる仕組みを構築する。
- 高齢者に地域での役割や活動の場を提供することで、地域の活性化及び住民の心身社会的な健康を実現する。

3. 事業の創出プロセス

- ・ヤクルトレディの気づきをコミュニティナースが拾い、同行し深掘りし、情報をリアルタイムで自治体に共有できたことがポイントである。
- ・自治体ならではの繋がりを企業である兵庫ヤクルトコミュニティナースに共有いただけただことで、大きな地域の動きに繋がった。

※すべての工程で企業と自治体がともに連携し実施。



4. 事業の実施事項：全体像

- 事業を通して、コミュニティナースの訪問による地域住民との関係構築、地域住民が必要とする地域資源の案内、ヤクルトレディ・コミュニティナースが把握する情報の播磨町への情報共有、社協と連携した地域サロンの開催を行った。

	実施事項	概要
今年度からの新規取り組み	①コミュニティナースの訪問による地域住民との関係構築	ヤクルトレディからの紹介や地域活動でお会いする地域住民の方に、 コミュニティナースが戸別訪問を実施 。
	②地域住民が必要とする地域資源の案内（幸ばあちゃんの家、まごころサポート等）	①を通じて、関わりができた地域住民に、コミュニティナースが直接アプローチするだけでなく、 必要とする地域資源の案内を実施 。
	③ヤクルトレディ・コミュニティナースが把握する情報の播磨町への情報共有	ヤクルトレディや、コミュニティナースが現場を回る中で得た気づきや情報を リアルタイムで播磨町へ共有 。
	④社協と連携した地域サロンの開催	社協と連携し「幸ばあちゃんの家」という空き家を活用した サロン「幸ちゃんコミナスかふえ」を開催 。

4. 事業の実施事項：①コミュニティナースの訪問による地域住民との関係構築

- ヤクルトレディの日々の訪問時に生活の様子に不安があると感じた地域住民や、その他地域でコミュニティナースとの関わりを必要としている地域住民に対して、コミュニティナースが戸別訪問を行い、困りごとや希望を聞き取り、ウェルビーイングプランの検討実現に繋げた。

コミュニティナースのかかわりが 必要な地域住民との接点構築



ヤクルトレディ

ヤクルトレディの訪問時に生活の様子に不安があると感じた地域住民や、コミュニティナースのかかわりが必要だと感じた地域住民をコミュニティナースに連絡共有する。

写真公開不可

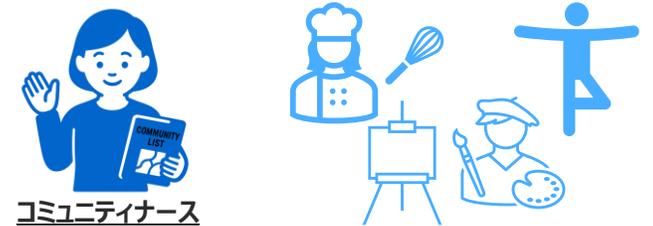
コミュニティナースによる戸別訪問



コミュニティナース

コミュニティナースが地域住民の自宅に訪問し、地域住民のお困りごとややりたいことの聞き取りを行う。

ウェルビーイングプランの検討・実現



コミュニティナース

聞き取りを行った内容を踏まえ、地域住民が希望を叶え、生活するための「ウェルビーイングプラン」を検討、実現に向けてサポートする。

写真公開不可

4. 事業の実施事項：②地域住民が必要とする地域資源の案内

- ウェルビーイングプランの実現にあたり、コミュニティナースだけでは対応しきれないニーズに対応するため、幸ばあちゃんの家、シニアホーム紹介事業「円か」、まごころサポート等の連携する地域資源の案内を行った。

連携先	幸ばあちゃんの家	シニアホーム紹介事業「円か」	まごころサポート
概要	<ul style="list-style-type: none">• 社協と連携し、空き家を活用したサロン「幸ばあちゃんの家」にて「幸ちゃんコミュニティカフェ」を開催。• 地域内の繋がりを求める地域住民を対象とした交流の機会の提供や、手芸や絵画等、趣味作品を披露する場の提供を行った。• 回数を重ねるごとに、地域住民が自分で作る場所としてコミュニケーションを重ね、やりたいことを自分たちで実現する環境が整いつつある。	<ul style="list-style-type: none">• 地域住民の老後や介護の悩みに寄り添い、より専門的な相談を求める方にはシニアホーム紹介事業「円か」の相談員の紹介を行った。• 連携事業であるシニアホーム紹介業「円か」を通じて、サービス付き高齢者住宅等の紹介を実施した。• シニアホーム紹介事業「円か」相談員に対してコミュニティナース研修を実施した。	<ul style="list-style-type: none">• 地域住民の働く場所の創出のため、お仕事をしたいとのニーズのある方へコンシェルジュ(有償ボランティア)として登録を実施した。• 地域住民によるコンシェルジュ(有償ボランティア)が草むしりや電球交換等の日常のちょっとした困りごとに対するお手伝いサービスを提供した。• コンシェルジュ(有償ボランティア)にコミュニティナースの研修を実施した。

4. 事業の実施事項：③ヤクルトレディ・コミュニティナースが把握する情報の播磨町への情報共有

- ヤクルトレディの日々の訪問やコミュニティナースの戸別訪問を通じて把握した情報について、播磨町への情報共有を行うため、情報共有シートを作成した。エクセルファイルをメールでやり取りし、播磨町からもコメントをいただくことで、素早く現場にフィードバックすることができた。

<情報共有シート（例）>

事例No	訪問日(相談日)	共有日	地域	事例タイトル	年齢	性別	ヤクルト飲用歴	担当ヤクルトレディ
7	2025年12月9日	2025年12月11日	〇〇	夫の長期入院で生活がひっ迫している女性	70代	女性	飲用中	〇〇YL
基本情報								
<p>ご本人の状況 ■年齢:78歳、左足骨折後の後遺症あり、人工肛門の閉鎖や乳がん手術歴、転倒・骨折などからも、身体的な負担は大きい。 ・心身の状況: 屋外ではシルバーカー必須、室内でも3点杖、明らかに移動・生活に支援が必要な状況。 ・精神的には「頼る人はいない」と言いながらも、ケアマネジャーとの関係に大きな安心と信頼を感じておられる。 ・夫の状況 ■心疾患で長期入院中、余命を告げられたが半年が経過、経鼻栄養中で、移動はおそらく困難、ご本人にとって精神的にも大きな存在。 ・家族などの状況 ■実子3人は実質的に頼れる状況ではない。 ・介護や心の支えになっているのは「ケアマネジャー」「宅配弁当の配達員」「病院スタッフ」など、地域の人的資源。</p>								
共有内容								写真・資料リンク
<p>12月9日14時 ヤクルトレディより ご本人の夫の入院が長期化、障害手帳や医療の申請をしているが2400円のヤクルトの支払いも難しいと昨日言われた。ヤクルトレディが役場に一緒に電話しようかと提案したが、本人が承諾せずできなかった。前の週に比べて、食事もできているか心配。12月が年金の支払い月。ヤクルトの支払いを数か月前から毎月に変えてもらったと聞く。 同日14時過ぎ コミュニティナースが本人宅に訪問。 しんどいとのことでインターホン越しのお話でよいと許可を取って話す。生活は大変で申請から3か月経ち、主治医もそろそろとのことで待っている。ケアマネジャーにはすべて話しており、対応してくれている。ご本人のお食事は食べられているかと聞くと、「ちゃんと炊くことはできる。週1回宅配弁当も届けてもらっている。」と。ケアマネジャーに相談したかと聞くと、「夫のケアマネジャーだから」との答え。コミュニティナースが、ケアマネジャーと話したいと伝えるが「任せている」と。障がいのことを役場に相談できるので「一緒に確認しますか？」と話す明確な返答なし。また来ますと断って終了する。 ステーションに帰ってから、ヤクルトレディと相談。食事がちゃんと摂れているか心配なため、匿名で地域包括支援センターにご相談を希望。</p>								
播磨町様コメント					その後の対応について			
総合相談がコミュニティナースからの連絡を受け、保健師(総合相談)とケアマネジャーとで、12月15日に本人宅を訪問しています。本人より金銭面の相談がありましたので、手続き支援等の対応をしました。ヤクルトレディからの情報提供により、対応ができましたのでご報告いたします。ありがとうございました。								

4. 事業の実施事項：④社協と連携した地域サロンの開催

- ・ 社協と連携し「幸ばあちゃんの家」という空き家を活用したサロン「幸ちゃんコミナスかふえ」を開催した。
- ・ 全4回のサロンに、96名(地域住民：46名、社員：20名、ヤクルトレディ：14名、役場：2名、社協：9名、見学者：4名、協同者1名)が参加した。

開催日	実施内容	参加者数
第1回： 11月18日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・ フレイルチェック&フレイル歌体操 ・ コミナスと話そう(以降継続) ・ おさがり交換会の実施。(以降継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 17名（内訳:地域住民3名、社員3名、ヤクルトレディ6名、役場2名、社協3名）
第2回： 12月16日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリオ門條氏(コーヒーコーディネーター)によるコーヒー提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15名（内訳:地域住民10名、社員1名、ヤクルトレディ2名、社協1名、協同者1名）
第3回： 1月20日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の刺繍/絵を展示。(以降継続) ・ ヤクルト容器工作(雪だるま)を作成。 ・ 血管年齢測定を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 27名（内訳:地域住民15名、社員4名、ヤクルトレディ4名、社協2名、見学2名）
第4回： 2月17日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤクルト容器工作(ひな人形)/大絵本を読もう/ボールプールで遊ぼうの3つでスタンラリーを実施。世代間交流を促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 37名（内訳:地域住民18名、社員12名、ヤクルトレディ2名、社協3名、見学2名）

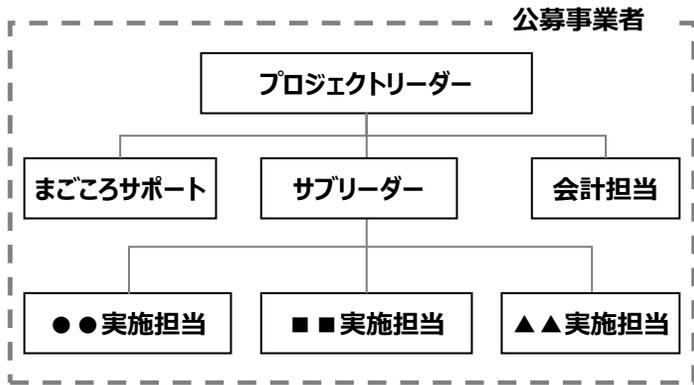
写真公開不可

5. 事業の実施体制

・ 事業推進体制および役割分担の全体像

- プロジェクトリーダー 地域包括ケアに関する行政・民間連携の構築経験 / 行政協働プロジェクトマネジメントスキル
- サブリーダー チーム運営./ 報告書作成/ 業務遂行管理
- 会計担当 予算計画の立案と管理/ 支出・経費の処理
- まごころサポート 支援サービスの企画・実行/ 見守り・訪問体制の実行
- 実施担当 地域とのコーディネート
- 実施担当 地域とのコーディネート
- アドバイザー コンサルティング

担当者名・役職	役割	当該事業推進比率	保有するノウハウ・能力・実績	作業内容
森田妙子 執行役員	プロジェクトリーダー	10%	行政協働マネジメントスキル	プロジェクト全体進行・調整
濱辺則子 人づくり推進室次長	サブリーダー	10%	チーム運営	公募事業のKPI管理
瀨本敦宏 宅配事業部主任	実務・会計担当	30%	会計知識	経理処理・予算管理
水田喜久 まごころサポート店長	まごころサポート	10%	高齢者支援	地域住民支援活動
小河畑珠貴 播磨町健康福祉課 課長	地域との コーディネーター	15%	地域支援	地域課題の可視化
生活支援コーディネーター 播磨町社会福祉協議会	地域との コーディネーター	15%	包括ケア支援	多職種連携
山元圭太 株式会社CNC執行役員	アドバイザー	10%	コンサルティング実績	助言・改善提案



公開不可

6. 事業の実施による効果：地域課題に対する効果

- ・本事業を通じて、社会的な関わりを求めている方に対するアプローチや自治体が把握できない地域課題・高齢者の生活課題の情報共有を行うことができた。

■ 社会的な関わりを求めている方に対するアプローチ

- ・コミュニティナースの活動を通じて、お客様106名、お客様以外381名との関わりをもち、その中で、89件の新規相談があった。
- ・そのうち、68件に対してウェルビーイングを叶えるプランを立案し、36件が実現に至った。

お客さま対面数 (人)	お客さま以外 対面数(人)	新規相談件数 (件)	WBP立案数 (件)	WBP実現数 (件)
活動の中でお会いできた ヤクルトのお客さまの数	活動の中でお会いできた ヤクルトのお客さま以外の数	ヤクルトレディや地域との 繋がりから得た相談件数。	対象者のウェルビーイングを 叶えるプランの考えた数	対象者のウェルビーイングを 叶えた数
106	381	89	68	36

■ 自治体が把握できない地域課題・高齢者の生活課題の情報共有

- ・コミュニティナースから、播磨町に対して地域課題や高齢者の生活課題について、10件の情報共有を行った。
- ・自治体が把握できていなかった情報も含まれており、自治体にとっても有益な情報提供ができた。

【コミュニティナースから播磨町に情報提供した象徴事例】

ヤクルトレディより、ご本人の夫の入院が長期化しており、障害手帳や公的福祉サービスの申請を進めているが、ヤクルトの支払いも難しいと昨日言われたとの相談があった。ヤクルトレディが役場に一緒に電話しようかと提案したが、本人が承諾せず実施できなかった。前の週に比べて、食事ができているかも心配とのこと。なお、年金の支払い月であり、ヤクルトの支払いについては数か月前から毎月払いに変更してもらったと聞いている。同日14時過ぎ、コミュニティナースが本人宅を訪問。体調がしんどいとのこと、インターホン越しでの会話の許可を得て話を聞いた。生活は大変な状況で、各種申請から3か月が経過しており、主治医からも「そろそろ結果が出るのではないかと」言われており、現在主治医からの結果報告を待っている状況とのこと。夫のケアマネジャーにはすべて話しており、対応してもらっていると本人より説明があった。本人の食事状況について確認すると、「ちゃんとご飯は炊けている。週1回は宅配弁当も届けてもらっている」とのこと。ケアマネジャーへの相談について確認したが、「夫のケアマネジャーだから」との返答であった。コミュニティナースよりケアマネジャーと話をしたい旨を伝えたが、「夫にすべて任せている」との回答であった。また、障がいに関する事について役場への相談ができるため、「一緒に確認しますか」と提案したが、明確な返答は得られなかった。再訪を伝え、その日の訪問は終了した。ステーションに戻り、ヤクルトレディと状況を共有し相談。本人の食事が十分に摂れているか心配なため、匿名(ご本人の希望)で地域包括支援センターへの相談を希望されたことから、コミュニティナースが播磨町の保健師へ相談した。その後、播磨町保健師とケアマネジャーにつながり、2名で同行訪問を実施。結果として、経済的な問題の解決につながった。

6. 事業の実施による効果：ビジネスに対する効果

- 本事業を通じて、売上や従業員の働きがい向上に対する効果が得られた。

■ 売上に対する効果

- 事業者からの商品注文や、ヤクルトレディの新規顧客増、顧客継続等により、本事業を通じて934,340円の収益が得られた。

	内容	数(件)	金額(円)
顧客増	法人/事業所/企業	3	148,176
	個人(把握分)	9	106,164
顧客継続/売上向上	顧客継続(把握分)	10	10,000
	売上向上(把握分)	1	10,000
他事業売上	シニアホーム紹介事業「円か」	1	550,000
	まごころサポート	10	110,000
合計			934,340

繋がった場所	数(件)	人(名)
【播磨町内】法人/事業所/企業/病院	4	10
【播磨町外】法人/事業所/企業/病院	18	25
【播磨町内】自治体	14	41
【播磨町外】自治体	7	8
【播磨町内】地域団体/民生委員	8	11
【播磨町外】地域団体/民生委員	5	5
合計	56	100

■ 従業員の働きがい向上に対する効果

- コミュニティナースにより、ヤクルトレディ自身の相談も受け付ける体制としたことにより、ヤクルトレディの安心感にも繋がった。
- また、コミュニティナースの活動を通じて、周囲へのお役立ちを感じるといった前向きな回答が得られた。

- **ヤクルトレディ自身からの相談実績**：24名中12名からの相談。

相談内容：腰痛/首の痛み/メンタル/子育て等

ヤクルトレディの感想：「話すことができ楽になった」「安心できた」との声が多数上がった。

- **ヤクルトレディへのアンケート**：

「コミュニティナースの活動についてどう思うか？」との設問に対して80%(とてもいいと思う、いいと思うと答えた方の割合)が前向きな回答。

「周囲へのお役立ちを感じることはありますか？」との設問に対して90%(とてもある、少しあると答えた方の割合)が前向きな回答。※活動前は80%で約12%増。

7. 事業の実施における課題：集いの場までの移動手段に関する課題

- ・「幸ばあちゃんの家」サロン「幸ちゃんコミナスカフェ」にこられる方の移動手段が少なく遠方から来ていただける方は少なかった。

● 各サロンや居場所にて来られる高齢者の移動手段

【課題】

関わった方の30%が杖やシルバーカーを必要としている。また、80%である独歩の方も移動距離や時間が限られ、お買い物やサロンや居場所に自由に足を運んでいただけないことが課題となっている。

【現状の取り組み】

古田西地区にて、コミュニティナース×ヤクルトレディ×社協×地域住民の情報交換会実施。インフラ空白地帯での生活の不便さを解消するための情報収集の場を開催した。地域住民からの声では、移動手段としては家族による支援、タクシー利用が多かった。比較的元気で活動的な方が多かったが、「コミュニティバスの運用」の話もでて、議論を続けていくことが決まった。

【解決策】

まごころサポート事業と連携し、買い物補助を目的としたうえで、移動の途中にサロンに寄る形を模索している。買い物に合わせて、サロンにも足を運んでいただくことで、孤独孤立の防止に繋がり、より大きく地域を動かしていくことができると感じる。

7. 事業の実施における課題：多世代交流に関する課題

- ・同サロンにて、高齢者の参加は定着してきたが、子育て世代の参加は少なく、世代間交流を生む場の創出を定着できなかった。

● サロンでの世代間交流の創出

【課題】

現状のサロンでは高齢者の参加が多く、世代間交流を生む場が創出できていない。今後は、子育て世代の孤独孤立対策の実現のためにも子育て世代の繋がりを増やしたい。また、地域の次世代の担い手としても繋げていきたい。そして、高齢者がお子さまにとっても楽しそうに物事を教える姿を見て、その方のウェルビーイング実現にも繋がると感じている。

【現状の取り組み】

「第4回幸ちゃんコミナスかふえ」にて高齢者×子育て世代向けの世代間交流を生む目的のサロンを実施。お子さまの参加もあり、自身が書いた絵をお子さまに高齢者が説明する姿は意気揚々としていて楽しそうだった。帰りにお話しをすると、「子どもが興味を持ってくれて、嬉しかった。あの子は絶対絵がうまくなる！」と喜ばれていた。

【解決策】

今後、子育て世代が集まる場所や人と繋がりを増やし、コミュニティナースが足を運んだり、サロンに来ていただいたり、コラボイベントを実施したり、行動を続けていきたい。さらに、兵庫ヤクルトならではの「ヤクルトマン」の着ぐるみと呼んだり、食事を作って食べるイベント(例として流しそうめん等)を実施したい。継続して、高齢者、パパママ、お子さまが集まる、そんな場所を目指して今後も取り組んでいく。

8. 事業の継続実現に向けた手法とその課題:コミュニティナースの継続的な育成

- 地域の担い手(自治会長、サロン代表、公民館の管理者等)をコミュニティナース化し、兵庫ヤクルトコミュニティナースの応援者であり分身を創出する。

● 地域の担い手に向けた「コミュニティナース研修」の実施

自治会長、サロン代表、公民館の管理者等に向けたコミュニティナース研修を実施し、兵庫ヤクルトコミュニティナースの応援者であり分身を創出する。そのコミュニティナースがまた次のコミュニティナースを生むサイクルを作っていく。そこに、兵庫ヤクルトコミュニティナースが定期的に訪問し、PDCAサイクルを回す環境を実現する。

【課題】

創出した市民コミュニティナースの活動を継続して管理していくことが難しい。1度きりでは継続できず、自然消滅してしまう可能性がある。

【解決策】

- ・「まごころサポート」の担い手として登録する。有償ボランティアの形での協働も続けていただくことで、繋がりが止まることなく継続した関係構築が可能になる。
- ・一定の活動を継続した市民に対し「地域コーディネーター」等の認定証授与
- ・活動実績の可視化(広報誌での紹介等)

写真公開不可

8. 事業の継続実現に向けた手法とその課題：コミュニティナースの活用促進

- 兵庫ヤクルトコミュニティナース事業化に向けて、社内向けと社外向けでの取り組みを促進する。

● 社内向け/社外向けに、兵庫ヤクルトコミュニティナース活用を促進する

全社員/ヤクルトレディが兵庫ヤクルトコミュニティナースを100%理解し、伝える力を身に着ける。そして、価値を知っていただき、結果、兵庫ヤクルトのファンになっていただくことを実現する。企業や事業所、他の自治体に向けても今回の事例を紹介する中で、連携強化や研修の実施を実現していきたい。

【課題】

- 社内でのコミュニティナースの理解が定着し、業務への落とし込みまでが難しい。
- 企業や事務所、他の自治体に向けての連携強化の中で、助成金等の費用をいただくのが難しい。

【解決策】

- 社内に向けたコミュニティナース研修を定期的の実施し、各部門の業務に定型化する。全社員/ヤクルトレディが、発信することでたくさんの繋がりが生まれてくるので、その事例を共有とフィードバックし、社内でのPDCAサイクルを回していく。
- 連携方法とその費用を1枚の提案書として作成し、連携と費用をセットでご提案できるようにする。費用に対する効果と社会的価値を長期的な目線でお伝えし、理解いただく。1度で終わるのではなく、必ず伴走し成功へ繋げていく。

9. 他地域への横展開の可能性とその課題

- まずは、兵庫ヤクルトエリアでの展開を進めていく。そして、全ヤクルトレディをコミュニティナース化する。

● 兵庫ヤクルトが同一事業を他地域にて展開するパターン

現在、兵庫ヤクルトエリアでの地域包括連携協定の締結を全地域で進めている。まずは、播磨町付近の市町村にて、展開を考えている。現状コミュニティナースは3名(現在は明石市、神戸市西区、播磨町を拠点に活動中)いるため、少しずつ展開し、将来的には兵庫ヤクルト担当エリア全ての地域でコミュニティナース×自治体の実現する未来を想像している。そして、全ヤクルトレディがコミュニティナースとして活躍し、地域のどこにでもコミュニティナースがあふれる地域を実現する。最終的には、全地域が集まり、地域を超えて協同し、全員が全員を支えあう未来を実現していきたい。

【課題】

- 各地域ごとにコミュニティナースを必要とする場所や内容が異なるため、各地域に応じた展開が大事になる。その中で、各コミュニティナースが自治体ごとに必要としている部分や地域の課題を拾う時間と人的資源が必要になる。
- 全ヤクルトレディがコミュニティナース化し、活躍していくにあたり活動内容やレベルを統一する必要がある。全地域でたくさんのウェルビーイングの種を叶え、地域を繋いでいくための取り組みを波及できるようにヤクルトレディの研修と育成がより一層大事になる。



9. 他地域への横展開の可能性とその課題

- 兵庫ヤクルトエリア外の法人、自治体、ヤクルト業界からのお問合せもあり、他地域への展開の可能性もある。

● 他のヤクルト業界、他の法人が同一事業を他地域にて展開するパターン

全国のヤクルト業界にて事例共有は行っており、実際に興味を持ってくださる販売会社もある。他法人からも今事業からご興味を持っていただき、実際に23団体(5自治体、18法人)の見学受け入れを行った。現在、4件のコミュニティナース研修のお問合せをいただいている。

現状としては、兵庫ヤクルトコミュニティナースを知っていただくための見学や受け入れが多くなっているが、今後はさらなる展開(兵庫ヤクルトとの協働や研修の実施、コミュニティナース事業のコンサルティング等)を目指し、打ち合わせ等継続していく。

【課題】

・ヤクルト業界への展開については、各販売会社ごとに地域課題や取り組み状況が異なる。そのため、兵庫ヤクルトの先行事例を積極的に共有し、本事業の意義を浸透させる必要がある。直近ではヤクルト本社中日本支店において、コミュニティナースの事例に関する報告を実施した。既に他の販売会社から高い関心が寄せられており、今後はこれらの接点を活かして順次情報共有を加速させる。合わせて、本事業が持つ社会的価値と持続可能な地域共生モデルとしての可能性を広く発信し続け、業界全体での新たな価値創造を目指していく。

・兵庫ヤクルトコミュニティナースモデルを法人、自治体、ヤクルト業界へ展開していく中で、地域によってさまざまな形を創造していく必要がある。その中で、各モデルに対する事業化に向けた課題が発生すると考えている。兵庫ヤクルトとしても長期的な目線での事業化を目指し取り組んでいる中、現状では短期での事業化実現が難しい。今後、さまざまな自治体や法人と関わりを持つ中で、ご意見等いただきながら実現に向けて取り組みを続けていきたい。